

2005年
夏

どうそ 満 議員活動報告



発行責任者 道祖 満
飯塚市鯉田2525-44
TEL 25-3280・22-9323

つくります!
newしいづがライフ

飯塚市議会議員 どうそ 道祖 満

e-mail:m.douso@fmwu.or.jp

のきしろ
軒白き月の光に山かげの

闇を慕ひて行く 螢かな

(宮内卿)

皆様、お元気ですか。

6月28日に定例市議会が終わり、この議会活動報告を書いています。兎に角暑い6月でした。

こんなに梅雨に雨が降らない年も久しぶりだと思っていました。

今年も妻の実家の田植えを手伝いますが、水不足のため田んぼの水当てが時間制になっていると聞き苗の育ちが気に掛かっていましたが、7月になり雨が降り出したので一安心しています。

梅雨の蒸し暑さは嫌いですが、やはり、雨が降る時期に降らないと大変ですね。

さて、飯塚市議会では、6月13日より6月28日までの間、6月定例市議会が開催されました。

わたしは昨年12月市議会で行いました国際化促進に関して今市議会でも一般質問を行い市の取り組みについて質しました。



(5月19日議会で幸袋にあります旧伊藤伝右衛門邸を見学いたしました。)

平成17年6月定例市議会報告

この定例市議会では、飯塚市女性センター条例の一部を改正する条例等の議案18件と固定資産評価員の選任について議会の同意を求めることについての人事議案1件と、議員提出議案6件、報告事項11件、農業委員会委員推薦について、議会選出各種委員会委員（飯塚市文化振興審議会委員）の選出について、の審議が行われました。

議会選出の飯塚市文化振興審議会委員には、わたしが選出されました。

また今回の議案では、財産の貸付けについて（情報提供サービスセンター施設及び工作物）と土地の処分について（飯塚リサーチパーク）が提案され可決されましたが、この内容は、幸袋のリサーチパークに今年3月末までに建設された土地・建物を、ベンチャー企業であります株式会社リップロックに8年間貸出すものです。

西日本新聞

2005年(平成17年)6月29日 水曜日

この株式会社リップロックは、ITを

基盤とした最新テクノロジーにより保健

・医療・福祉サービスの提供を行う会社で、各種サービスを電話・FAX

・Webで行うコールセンター事業を展開し、雇用については、平成17年度で85名、4年後には345名

の計画をしており、インドネシア等の海外でも40

名程度の人員採用を計画しています。

（株式会社リップロックに貸付けが

決まった 幸袋リサーチパーク

内の施設）

飯塚市議会閉会
補正予算など日本
18議案を可決
意見書1件は否決

飯塚市議会は二十八日、定例会の最終本会議を開き、本年度企業会計補正予算案など十三議案と議員提出の意見書案五件を可決、専決処分五件を承認、人事議案一件に同意して閉会した。

意見書は「住民基本台帳の閲覧制度の早期見直し」を求めるものなど全部で六件を採決。このうち「郵政民営化法案の廃案」を求める意見書は賛成少数で否決した。

可決した議案の主なもの、七月一日の同市男女共同参画推進条例施行に伴い、市の女性センターを「男女共同参画推進センター」に名称変更する条例改正案など。人事議案は固定資産評価委員の辞任に伴うもので、上田高志・同市総務部長が選任された。



防犯活動強化へ青色回転灯設置

3月市議会の代表質問で防犯・暴力追放についての施政方針に関して、住民の自主防犯パトロールに使用する自動車に青色回転灯を取り付けて防犯活動強化につなげることを考えてはどうか提言していましたが、この提言が取り上げられ、市と防犯協会と協力して飯塚警察署管内で4台の自動車に（飯塚市内では飯塚地区、片島地区の地域安全推進隊パトロールの2台）設置が行われ、6月3日に発足会が飯塚警察署で行われました。（今後は、残る市内各地区に設置要望をしていく考えています。）



飯塚市教育改革プラン作成

文部科学省の教育の構造改革について飯塚市はどのように対応するのか、一般質問を重ねてきた結果、飯塚市の平成16年度当初予算に教育改革プラン作成の予算が計上され、教育委員会では、教育改革アドバイザー会議を設け平成16年5月から今年の3月まで8回の会議を開き飯塚市教育改革プランの作成を目指していましたが、その作成報告が平成17年5月11日開催の厚生文教委員会にありました。

このプランは、家庭・学校・地域・行政の役割についてそれぞれまとめ、現状、課題の分析を行い、子どもたちの生きる力の育成に向けた飯塚市の教育改革プランであると性格付けており、平成16年度から10年間を計画期間としているとの説明がありました。

この改革プランは、現状で対応している内容と平成18年度以降対応する内容が盛り込まれていますが、その大きく変わるものは、「平成17年度から全ての小学校で1年生から英語活動を導入する。」、「平成17年度で学校選択制度の実施要項等の作成を行い、平成18年度から学校選択制度の実施」ではないかと思えます。

学校選択制度については、「現在、通学区域については、児童生徒や保護者の要望により、指定学校変更許可基準は、弾力的運営していますが、学校選択の自由性と特色ある学校作り等の視点から、通学する学校を自由に選ぶことができる。」とされています。

国際化の促進について一般質問を行いました。

昨年12月市議会で国際化の促進について質問を行いました。その後の取り組みがどうなっているのか一般質問を行い進捗状況の確認を致しました。

◎今年の飯塚国際車いすテニス大会は無事に成功したのか、どうか。

多くの外国の選手が宿泊されたと思いますが、宿泊施設ではインターネット回線で海外とのやり取りは出来たのか、どうか。

この質問の答弁としては、この大会は盛会のうちに終了した。

海外とのインターネットは、市内の宿泊施設では、部屋に回線設置の料、公衆電話による接続の料となっている、筑豊ハイツでは設備が無く大会事務局にパソコン3台を設置して対応したとのことでした。

◎平成17年も半ばとなりますが、「昨年6月に出来ました飯塚地区留学生支援国際交流会等、いろんな支援団体との連携を今後とりまして、それぞれ役割分担を決めまして、例えば住宅問題の悩みについてはどこどこに行くような形とか、奨学金制度の拡充あたりをできればやっていくような制度が出来ないかを、交流連絡会の中で協議をしながら留学生なり外国人の方の支援に今後それぞれの意見をとりまとめて実現できるものから実現して行きたいと考えています。」との答弁でありましたが、この連絡会はその後何度会合が開かれその協議の結果はどうなっていますか。

この質問に対しての答弁は、この連絡会は平成16年12月6日開催後開催されていないとのことでした。

◎先だって、改めて久留米市の国際交流協会に伺い色々な話を聞いてきましたが、国際交流協会についての質問に対しては、「この国際交流協会的な機関の設置は、言われますように国際化の推進、それから留学生等外国人の支援に有効な方策と認識しております。今後国際交流に関わってある各種団体、それから企業、大学と協議を行い、行政の関わり方を含めまして研究を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。」「16年度中には現地調査なり資料の収集を集め、検討を終わり、出来るか出来ないかにつきましては17年度前半には結論を出したいと考えております。」と答弁されていますが、その後どのように検討等されていますか。

この質問に対する答弁は、県内では、福岡市・北九州市・久留米市・太宰府市・大野城市・前原市にそれぞれ規模は違って居ますが国際交流協会があります。

国際交流協会は、国際交流を推進するには有効な方策と認識していますが、市民の国際感覚の醸成についてはまだまだ不足している状況であり、市民意識を高め

国際交流活動に理解ある団体を増やし、そのネットワークづくりを行う必要がある。

協会の運営費について久留米市の状況を見てみると、本市の財政状況から考えると、まず、草の根国際交流を市民レベルに広げ、将来的に考えていきたいとのことでした。

◎国際学会の開催に関連して同時通訳が出来る施設の建設についての考えをお尋ね致しましたが、これに対しても調査を行い研究を行って行きたいとの答弁でしたが、その後どうなっていますか。

この質問に対する答弁は、福岡市の国際会議場のような百億円を超える施設を整備することは現実的には困難なことです。既存の施設に同時通訳システムを構築することや、通信機器をいれ外する方法も考えられますので、検討してみたいと思っていますとのことでした。

◎久留米市では、国際交流協会を観光協会と一体として平成18年度から事業運営を行うとのことですが、飯塚市では国際交流と観光または産業と結びつけて取り組む考えはお持ちですか。

また、結びつけて取り組んだ時の波及効果はどのように生ると考えられますか。

この質問に対する答弁は、国際交流のなかで、観光や産業に特化した交流を行うことは交流の目的が明確になり、継続的な交流が出来ることにもつながり、また、その事業を中心としてさまざまな国際交流が広がることも期待できると考えています。文化と産業を一体化した国際化の環境づくりは、極めて重要な課題であると同時に、その取り組みが必要ではないかと考えておりますとのことでした。

今回の質問を通じて感じたことは、企画調整部長が、12月市議会の際の答弁で、「市民による市民のための国際交流事業ということを長期的な視野に立って推進していきましょうということになっておりますので、この趣旨に従って本市も取り組んで参りたいということを考えておりますので、そうしたことでご理解をお願いします。」とのことでしたが、改めて、市としては国際化が進む社会の中で主体性を持って市民を国際化社会に対応する方針を持っていない、行政各課においてそれぞれ国際化への取り組みを行っていますが、それを統括して把握している部署がないため目指す方向性がはっきりとしていないことを指摘すると共に、ある意味では、この部長答弁は、責任を市民に押しつけて行政の責任の放棄とも取れることを指摘し、今後の取り組みの在り方について考えることを強く要望いたしました。

その結果、海外からの留学生等が住まいに困っていることに対する対応策として、相田清水谷の県営住宅の建替事業後解体予定であった旧県営住宅の4棟16戸を来年度から貸出す方針であること、市が主体性を持って国際交流協会等の組織の前提となる国際交流活動団体のネットワークを作る考えを示しました。

インド行政視察報告

平成17年4月24日より5月1日まで、インド国内のニューデリー・バンガロール・コチの三都市にありますIT企業・大学を同僚議員四名で行政視察に行ってきました。

飯塚市では、九州工業大学情報工学部、近畿大学産業理工学部の卒業生などによる起業活動が活発に行われ、約50社のベンチャー企業が誕生していますし、日本一創業しやすい街として行政も新産業育成に力を入れています。

また、国の構造改革特区法に基づき平成15年4月には「飯塚アジアIT特区」としても認定されています。

今回の視察は、飯塚市のこの環境を有効に活用することを考え、インド貿易振興局の協力を頂き、世界的に注目を集めているインドIT企業と飯塚市のベンチャー企業の提携による事業拡大の可能性、大学間の交流・提携の可能性、インドIT技術者の活動支援の可能性、インド企業の誘致の可能性を目的に行いました。

4月24日(日)

福岡空港 8時35分発 関西空港 9時35分着

関西空港 14時00分発 ニューデリー 現地時間 21時00分着

4月25日(月)

- ①インド貿易振興局本局訪問(10時30分～12時00分)サカール前インド貿易振興局東京事務局長を表敬訪問し飯塚市の紹介と交流促進の協力を依頼いたしました。
- ②エルロクス&コンピュータソフトウェア社訪問(12時30分～13時30分)この会社は、インド政府支援のもとIT企業の海外展開を支援しています。
- ③NASSCOM社訪問(14時30分～15時30分)この会社は、インド国内におけるIT産業の市場分析と海外展開する場合のコンサルティング、語学研修を行っている会社です。
- ④インド貿易振興局本局事業部長訪問(16時30分～17時30分)事業部長と26日の会社訪問予定内容の確認。

4月26日(火)

- ① ニュークリアスソフトウェア・イクスポート・リミテッド社訪問(10時00分～13時00分)この会社は、銀行業務・金融サービス産業のソフトウェアサービスを提供しており日本の新生銀行のバックオフィスサービスをオンラインでサポートしています。
- ② インド貿易振興局(14時30分～15時30分)次の都市バンガロールの訪問先スケジュールの確認。
- ③ 旧ニューデリー市街地視察(16時00分～18時00分)

4月27日(水)バンガロールに移動

ニューデリー空港発 9時00分～バンガロール空港着 11時00分

- ① CENTRE FOR DEVELOPMENT OF ADVANCED COMOUTER 社訪問(14時00分～15時00分)
この会社は、政府系のスーパーコンピュータ開発企業で、教育事業も積極的に展開しています。
- ② バンガロール・ハイテク研究所(16時00分～16時30分)ハイテク・テクノロジーの調査をする研究所。
- ③ VMoksha Technologies Pvt 社(17時00分～17時30分)この会社は、金融、有価証券、保険等にvMoksha 技術を提供しています。
- ④ JIN インフォメーション・システム社(18時00分～18時30分)この会社は、日本人が出資して設立されたソフト企業で、日本とインドに事業所を設置してソフト開発を行っています。

4月28日(木)

- ① Software Technology Parks of India(10時00分～11時00分)この施設は、インド国内のIT企業の海外進出の支援を行う伴に、技術者が起業するためのインキュベーション施設を提供しています。
- ② International Institute of Information Technology Bangalore (11時30分～12時30分) この施設は、かつて政府とインドの民間企業が共同出資して建設した、大学院生と民間企業が合同で研究開発を行う施設で、企業とのジョイント・プロジェクトを興すことにより運営資金を確保している大学です。
- ③ Infosys 社(12時45分～14時00分)この会社は、5名の会社を初め、今日ではバンガロール本社に技術者を約18000名(世界では約28000名)有するソフトウェアの会社でインドIT企業のシボルの存在の会社です。
- ④ TRIANZ(15時30分～16時30分)この会社は、2000年に設立された会社で経営戦略、請負サービス等の提供を行っている企業で、東京にも事務所を置き積極的に日本とのビジネスの展開を行っています。
- ⑤ バンガロール市商工会議所(17時00分～18時00分)
バンガロール市商工会議所に所属している企業が日本(飯塚市)に進出してくる場合の諸条件について意見交換をしました。

4月29日(金) コーチンに移動

バンガロール空港発10時15分～コーチン空港着11時15分

- ① インドコスシステム社(14時00分～15時00分)この会社は、コーチン市内に本社を置き日本向けのビジネスを行っている会社です。
- ③ RRソフトウェアPvt 社(15時00分～16時00分)この会社は、最新の技術に基づいたインフラストラクチャーを開発、設計しているソフトウェア開発企業です。
- ④ コーチン市商工会議所(19時00分～21時00分)
コーチン市商工会議所に所属している企業が日本(飯塚市)に進出してくる場合の諸条件について意見交換をしました。

4月30日(土)～5月1日(日)

コト市空港発12時45分～関西空港着5月1日12時35分

関西空港発15時40分～福岡空港着16時50分

享月

日

業斤

月日

2005年(平成17年)5月11日

「インドの教授
飯塚市を視察
「IT可能性大きい」
インドのバンガロール
市にあるインド国際情報
技術大学院のスリナス・
スリニバサ教授が10日、
飯塚市を訪れ、市内のト
ライバレーセンター、福
岡ソフトウェアセンター
などを視察した。
バンガロール市はIT
(情報技術) 大国と言わ
れるインドの都市のなか
でも最も集積が進んだ地
域で、「インドのシリコ
ンバレー」とも呼ばれ
る。スリナス教授は、イ
ンドのコンピュータ関連
研究の権威として知ら
れ、飯塚市議会議員を中
心とするIT先進地視察
団が4月末にバンガロー
ル市を訪れた際に、「ア

シアIT特区」を打ち出
している飯塚市に興味を
持ったという。スリナス
教授は「炭鉱からITに
シフトした、大きな可能
性ある都市ということで
関心がある」と述べた。
飯塚市はインドのIT
企業の誘致を目指してお
り、出迎えた江頭貞元市
長は「今回の訪問はまご
とに時宜を得たもの」と
して、指導と協力を要請
した。

今回の行政視察の目的は、IT*企業の
飯塚市進出の可能性を調査することを目
的にして行いましたので出来るだけ多くの
企業、人々に会う行程を組み「アジア飯塚
IT特区」のビザ発行の優遇制度等を説明
を行い、日本に進出を考える場合は、東
京だけでなく飯塚市に目を向けて検討す
る様にお願い致しましたが、多くの方が
関心を持ち、飯塚市に対する好印象を持
たれた様でした。

その結果、早速、バンガロールでお会いし
たIT*・バンガロール市のIT*国際情報技術
大学院のスリナス・スリニバサ教授が、5月10
日に飯塚市を見学に来られましたので、
飯塚市内の大学、新産業関係各施設を同
行して案内を致しました。

また、8月にはIT*コスモス社の方が飯塚
市を見学に来られる予定です。

今後も、IT*貿易振興局の方、大学関
係者、コト市の方々の飯塚市の視察計画
が考えられています。

